

南山大学人類学博物館

年 報

2005 年度

南山大学人類学博物館

巻頭言

今日、博物館は全体として大きな転機を迎えている。その転機にはいくつかあるが、昨今、最も話題にのぼるのは「指定管理者制度」の導入であり、また国立博物館をめぐる独立行政法人化と市場化テスト導入の問題であろう。これらは、博物館をめぐる環境の激変を意味しており、日本における博物館のあり方を根底から見直さざるを得ない契機になるであろう。

そうした問題意識もあって、2005年度には「博物館シンポジウム」として、指定管理者制度を取り上げた。指定管理者に手を挙げた民間企業と指定管理者を受けることになった博物館から、それぞれの立場においていろいろな意見を交換することができたと思う。こうしたシンポジウムは、東海地方では初めてのことであり、参加者からはいい議論だったとお褒めの言葉をいただくこともできた。

指定管理者の問題は、その導入背景や手続きの問題点など様々であるが、当日の講師・パネリストの方々から一様に聞かれたのは、行政の対応の問題であった。その中身についても様々な意見があるが、最も問題だと思われるのは、官から民へという一方的な流れの中に、「文化」それ自体が置かれてしまったということであろう。もちろん、「文化」の活用に民の手が加わることは悪いことではない。民で培われたノウハウは、「文化」の活用に大きな力を果たすことは間違いない。だが、ここで指摘したいことは、人類にとって共有されるべき財産である「文化財」を、経済効率の中でのみ評価して、「ムダをなくす」という名目のもとに、行政がその保存と活用の責務を放棄していることである。

日本では、文化行政は景気に左右されることが多い。博物館の入館者数も、不景気になると減少するといわれる。毎日の生活が大切なことは十分理解できるが、将来に向けて長い視野で見たとき、自分たちの子どもや孫たちに残せる社会がとても貧弱なものになることは想像するべきであろう。このことはまた、十分にその役割を果たしてこなかった博物館にも向けられる。

本学の場合、私立大学ということから、指定管理者制度導入による直接的な影響は少ない。しかし、毎年、学芸員有資格者を出している立場から言えば、学生に対する指導の面では大変な影響がでるであろう。極端な話、指定管理者が職員採用に関して、学芸員資格を採用条件からはずしたとき、学芸員制度そのものが覆される可能性があると考えておいたほうが良い。

ただ、悪い面だけを強調すべきでもないと思う。今回のような問題は、長い間、公の中に身を置いて安穩としてきた博物館の、目を覚まさせる強烈な一撃である。これを機会として、博物館は自らの足場を見直し、将来に向けての自画像を描くべきであろう。

2006年6月

南山大学人類学博物館

目 次

巻頭言

2005 年度の人類学博物館の活動	2
1 . 教育・普及活動	4
(1) 展示	
(2) 博物館講座	
(3) 講演会	
(4) シンポジウム	
(5) 見学対応	
2 . 調査・研究活動	9
(1) 調査出張	
(2) 専門家招聘	
3 . 資料貸出・撮影・閲覧・他機関刊行物等への掲載	10
(1) 資料貸出	
(2) 撮影・他機関刊行物等への掲載	
4 . 資料修復	11
5 . 当館紹介刊行物等一覧	11
6 . 刊行物等一覧	11
7 . 受贈資料	11
8 . 新着図書	12
(1) 購入図書	
(2) 寄贈図書	
9 . 取材・調査のための来館者一覧	14
10 . 開館日数・入館者数	15
(1) 開館日数・来館者数	
(2) 団体別入館者数内訳	
11 . 日誌抄	17
12 . 施設整備	24
13 . 2005 年度決算報告	25
14 . 組織	26
15 . 規程	27
(1) 南山大学人類学博物館規程	
(2) 南山大学人類学博物館運営委員会規程	

2005 年度の人類学博物館の活動

2005 年度は人類学博物館にとって新たな一步を踏み出した年となった。この 1 年間の活動をまとめておきたい。

1. 規程の制定と新体制の発足

2004 年度に「博物館のあり方に係るプロジェクト・チーム」が 8 回の検討を経て、総務・将来構想担当副学長に、人類学博物館の組織や運営、将来構想に関する答申を提出した。その結果、「南山大学人類学博物館規程」「南山大学人類学博物館運営委員会規程」の制定が将来構想委員会を経て大学評議会で審議され、4 月 26 日の評議会で決定された。規程が制定されたことによって、それまで不明瞭であった学内における組織としての博物館が明確に位置付けられた。これは今後、より活発な博物館活動を行っていく上で極めて重要なターニングポイントとなろう。

この規程によって、具体的な博物館運営組織としての南山大学人類学博物館運営委員会が発足した。また、これまで人文学部人類文化学科長が務めていた館長を教学担当副学長が務めることとなったほか、博物館担当教育職員が置かれることとなった。館長には浜名優美総合政策学部総合政策学科教授が就任し、博物館担当教員にはこれまでも博物館運営に携わってきた黒沢浩人文学部人類文化学科助教授が委嘱された。

2. 博物館講座の開講と公開講演会

教育普及活動の面においての新たな展開が、博物館講座の開講と、公開講演会の開催である。詳細は各報告に譲るが、前者については、2005 年度博物館講座『南山大学人類学博物館のすべて』と題して、本学教員である早川正一、伊藤秋男、大塚達朗、黒沢浩の各氏を、学外からは、上智大学名誉教授の量博満氏と、市立市川考古博物館学芸員の領塚正浩氏を講師に迎え、5 月から 1 月までの間に 8 回の講座を行った。本学の学生 12 名を含む 42 名の参加申込があり、熱心に耳を傾けて頂くことができた。後者については 12 月には群馬町（現高崎市）教育委員会の若狭徹氏を、1 月には明治大学図書館事務部長の熊野正也氏を講師に招いて開催した。

3. 業務の委託

今年度より、当館で所蔵している国内各地の発掘調査報告書約 13,000 冊を本学図書館のホームページから検索できるようにするための遡及入力業務を 6 年計画で、実物資料のうち寄贈を受けた民具資料の整理と台帳整備の作業を 5 年計画で、それぞれ外部委託によって開始した。発掘調査報告書は、これまで学生や教員の利用に限られていたが、学外者でも閲覧可能となった。資料整理については、台帳整備を目的に行うものであり、所蔵資料全体のデータベースを構築するための準備段階である。

4. 寄贈資料受入れについて

2005年度はまとまった資料の寄贈が2件あった。1件は、名古屋市西区の水野進氏による654点で、水野氏の生業であった大工道具がその核となった生活資料である。もう1件は、名古屋市名東区の堀内俊彦氏による228点で、裁縫道具関係が核となる生活資料である。水野氏から寄贈を受けた資料については核となる資料である大工道具を中心に、『南山大学人類学博物館紀要』第24号の中で特別嘱託職員の安藤が報告を行っている。

5. 博物館実習

2005年度の博物館実習も、前年度同様に当館の第2展示室と、新たにロビーを使い、実習生の企画による展示を行った。教職員や学生だけでなく、期間中に博物館シンポジウムが開催されたため、様々な方に見て頂けたことは、実習生にとっても良かったように思う。

また、本学の学生とは別に、今年度初めて東京国際大学と名古屋学芸大学より学芸員資格取得を目的とする学生を各1名ずつ受け入れ、夏休み期間中の2週間、館務実習を行った。博物館としては通常業務の中に実習を位置づけ、実習のための特別なプログラムは設けなかった。学生の出入が少ない夏休み期間中であったため、来館者と接する機会がほとんどなかったのは残念であった。博物館の日常業務の中でともに仕事をするのを当館では実習と考えるため、今後も同じスタンスで館務実習の受け入れを行っていききたい。

6. その他

昨年度に引き続き、本学大学院人間文化研究科の予算で博物館シンポジウムを行った。『強い博物館像を求めて 博物館はどうなる?!』と題し、「指定管理者制度」をテーマに取り上げた。

また、人文学部との共催で古代エジプト・ピラミッド研究の権威であるマーク・レーナー博士(Dr. Mark Lehner)を招き、『ピラミッドの失われた町：ギザにおけるセトルメント・アーケオロジー(The Lost City of the Pyramids: Settlement Archaeology at Giza)』と題した講演会を行い、人類学博物館は広報と運営を担当した。

さらに、国立民族学博物館名誉教授の友枝啓泰氏による『アンデス世界の記録者として - 民族写真の可能性』と題した講演会を、本学ラテンアメリカ研究センター、人類学研究所と共催した。昨年度、当館は友枝氏よりアンデス民族学画像資料約4万点の寄贈を受け、この資料については『南山大学人類学博物館紀要』第24号に本学外国語学部スペイン・ラテンアメリカ学科教授の加藤隆浩氏と、本学大学院文学研究科文化人類学専攻博士後期課程の河邊真次氏によって報告されている。

人事については、10月末日で特別嘱託職員の後藤真里が退職して臨時職員であった木田歩が後任となり、木田の後任として山崎剛が臨時職員となった。

1. 教育普及活動

(1) 展示

博物館実習履修生による企画展示

1) 12月2日～12月10日

『原始の精神世界』

『響感』

『THE 儀礼』

『THAI コレ 2005』

『ぎやらりい珍』

2) 12月16日～12月23日

『北タイを着タイ』

『茶の間からのぞく昭和』

『ハニワ先生の古墳塾』

『精霊と生きる』



『原始の精神世界』



『響感』



『THE 儀礼』



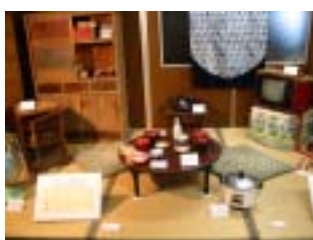
『THAI コレ 2005』



『ぎやらりい珍』



『北タイを着タイ』



『茶の間からのぞく昭和』



『ハニワ先生の古墳塾』



『精霊と生きる』

(2) 博物館講座

2005 年度博物館講座『南山大学人類学博物館のすべて』

第 1 回 5 月 14 日(土) 13:00~15:00

「マリンガー・コレクション」

講師：早川正一氏(本学人文学部教授) 参加者数：28 名

第 2 回 6 月 11 日(土) 13:00~15:00

「入海貝塚と縄文早期」

講師：大塚達朗氏(本学人文学部教授) 参加者数：29 名

第 3 回 7 月 2 日(土) 13:00~15:00

「日本考古学研究所とジェラード・グロートのコレクション」

講師：領塚正浩氏(市立市川考古博物館学芸員) 参加者数：20 名

第 4 回 9 月 24 日(土) 13:00~15:00

「大須二子山古墳の時代」

講師：伊藤秋男氏(本学人文学部教授) 参加者数：18 名

第 5 回 10 月 8 日(土) 13:00~15:00

「タイ西北部山地民族の調査」

講師：量博満氏(上智大学名誉教授) 参加者数：20 名

第 6 回 11 月 12 日(土) 13:00~15:00

「ニューギニア高地人の調査」

講師：早川正一氏(本学人文学部教授) 参加者数：15 名

第 7 回 12 月 10 日(土) 13:00~15:00

「昭和 30 年代、日本の生活」

講師：大塚達朗氏(本学人文学部教授) 参加者数：15 名

第 8 回 1 月 14 日(土) 13:00~15:00

「弥生時代のはじまり - 高蔵貝塚・西志賀貝塚」

講師：黒沢浩氏(本学人文学部助教授) 参加者数：16 名

(3) 講演会

公開講演会

第 1 回 12 月 16 日(金) 18:00~19:30 名古屋キャンパス KB1 教室

「古墳時代地域社会の構造 - 三ツ寺 遺跡とその周辺」

講師：若狭徹氏(群馬町教育委員会)

第 2 回 1 月 13 日(金) 18:00~19:30 名古屋キャンパス KB1 教室

「シュリーマンの考古学」

講師：熊野正也氏(明治大学図書館事務部長)

人文学部・人類学博物館共催講演会

9月27日(火) 16:30~18:00 名古屋キャンパス DB1 教室

「ピラミッドの失われた町：ギザにおけるセトルメント・アーケオロジー」

"The Lost City of the Pyramids: Settlement Archaeology at Giza"

講師：マーク・レーナー博士 (Director, Giza Mapping Plateau Project)

ラテンアメリカ研究センター・人類学研究所・人類学博物館共催講演会

12月20日(火) 14:40~16:10 名古屋キャンパス L棟 910 会議室

「アンデス世界の記録者として - 民族写真の可能性」

講師：友枝啓泰氏 (国立民族学博物館名誉教授 / 広島市立大学名誉教授)

(4) シンポジウム

「強い博物館像を求めて - 博物館はどうなる?!」

日時：12月3日(土) 13:00~17:30

主催：南山大学大学院人間文化研究科

協力：南山大学人類学博物館

後援：愛知県博物館協会

会場：名古屋キャンパス G27 教室

内容：基調講演

「指定管理者制度導入で問い直される文化施設の役割」

小林真理氏 (東京大学大学院)

報告

「乃村工芸社の取り組み - 長崎歴史文化博物館を例として」

中島秀男氏 (株式会社乃村工芸社 PPP 開発センター)

「指定管理者制度と歴史博物館」

前沢和之氏 (横浜市歴史博物館)

「指定管理者制度 - 丹青社の取り組み」

田村和彦氏 (株式会社丹青社 IMCC 本部開発デザインセンター事業企画室)

討論

パネリスト 小林真理氏、中島秀男氏、前沢和之氏、田村和彦氏

司会 川合剛氏 (名古屋市博物館)、秋元悦子氏 (愛知淑徳大学)

シンポジウム実行委員：

秋元悦子氏 (愛知淑徳大学非常勤講師)、市橋芳則氏 (本学非常勤講師 / 師勝町歴史民俗資料館)、川合剛氏 (名古屋市博物館)、久保禎子氏 (一宮市博物館)、黒沢浩氏 (委員長 / 本学人文学部助教授)、小池富雄氏 (本学非常勤講師 / 徳川美術館)、早川正一氏 (本学人文学部教授)

(5) 見学対応

一般団体

1) 明治大学カルチェ・ヴィヴァン文化講座 40 名

実施日：2005 年 4 月 20 日

「東海の遺跡探訪 - 3 尾張の遺跡をめぐる」講座の一環で来館。展示解説を行った。

2) クラブツーリズムカルチャー旅行センター歴史倶楽部 16 名

実施日：2005 年 7 月 12 日

考古学を学ぶツアーの一環で来館。展示解説を行った。

3) 音聞山子ども会 14 名 (引率 1 名含)

実施日：2005 年 7 月 21 日

子ども会行事の一環で来館。学生ボランティアの協力を得、館内を見学した後、好きな資料を一つ選んでスケッチをしてもらい、発表会を行った。



4) 名古屋高年大学歴史愛好クラブ 37 名

実施日：2005 年 10 月 13 日

校外研修で来館。展示解説を行った。

5) NPO 法人名古屋おやこセンター「キッズ・カレッジ」子ども 15 名・大人 5 名

実施日：2005 年 10 月 29 日

同法人の理事である山口真人本学人文学部心理人間学科教授の仲介による。展示解説を行った後、レプリカの石器を使って紙を切ってみたり、昔の遊び体験をするなどの体験学習を行った。

6) 名古屋・瀬戸地区高等学校社会科教育研究会世界史部会 24 名

実施日：2005 年 11 月 22 日

現地研修会の受け入れ。展示解説を行った後、黒沢浩本学人文学部人類文化学科助教授によるカンボジアの調査に関する講演を行った。



7) 名古屋高年大学広報研究クラブ 32 名

実施日：2005 年 12 月 6 日



展示解説を行った。

8) 豊田工業大学 12 名

実施日：2006 年 3 月 30 日

展示解説を行った。

学校団体

- 1) 名古屋市立川名中学校 3 年生 31 名 (引率者 1 名含)
実施日：2005 年 6 月 21 日、22 日
選択社会科の授業の一環で来館。縄文時代と弥生時代について、実際に土器を触ってもらいながらレクチャーを行った。
- 2) 飛島村立飛島中学校 2 年生 48 名 (引率 8 名含)
実施日：2005 年 6 月 24 日
総合学習の一環で来館。展示解説を行った。
- 3) 愛知県立小牧南高校 2 年生 185 名 (引率 7 名含)
実施日：2005 年 7 月 15 日
総合学習の一環で来館。展示解説を行った。
- 4) 國學院大学博物館実習生 36 名 (引率 3 名含)
実施日：2005 年 8 月 3 日
博物館実習の授業の一環で来館。展示解説を行った。
- 5) 江南市立宮田中学校 1 年生 7 名
実施日：2005 年 10 月 20 日
総合学習の名古屋近郊学習の一環で来館。
展示を見ながら、予め頂いていた質問に沿って解説を行った。
- 6) 阿久比町立阿久比中学校 2 年生 4 名
実施日：2005 年 11 月 11 日
総合学習における名古屋近郊分散研修の一環で来館。展示解説を行った。
- 7) 豊明市立豊明中学校 1 年生 5 名
実施日：2005 年 12 月 1 日
校外学習の一環で来館。展示解説を行った。
- 8) 名古屋市立桜山中学校 2 年生 17 名
実施日：2006 年 1 月 20 日
総合学習の一環で来館。展示解説を行った。
- 9) 名古屋市立一柳中学校 1 年生 11 名
実施日：2006 年 1 月 26 日
総合学習の一環で来館。予め頂いていた質問に回答しながら展示解説を行った。
- 10) 名古屋市立滝川小学校 3 年生 145 名 (引率 6 名含)
実施日：2006 年 2 月 14 日、15 日
総合学習の一環で来館。展示解説の後、質疑応答の時間を設けた。

11) 名古屋市立清水小学校 5 年生 47 名

実施日：2006 年 2 月 15 日

名古屋市内分散学習の一環で来館。展示解説を行った。

2. 調査・研究活動

(1) 調査出張

出張先名：「ミュージアムマネジメント」セミナー

出張者：後藤真里

実施日：2005 年 6 月 3 日（金）

会場：東京ファッションタウンビル

出張先名：「ミュージアムマネジメント」セミナー

出張者：安藤さおり

実施日：2005 年 6 月 8 日（水）

会場：大阪マーチャンダイズ・マート

出張先名：博学連携フォーラム『はくぶつかん』での学び

出張者：安藤さおり

実施日：2005 年 10 月 12 日（水）

会場：美濃加茂市民ミュージアム

(2) 専門家招聘

博物館スタッフ・大学院生・学生を対象として、人類学博物館所蔵資料および人類学博物館の活動に対するアドバイスを頂く博物館セミナーを行った。

博物館セミナー「博物館のアイディア」

日時：12 月 16 日（金） 14：40～16：10

講師：若狭徹氏（群馬町教育委員会）

会場：人類学博物館学習室

博物館セミナー「大学博物館の向かう道」

日時：1 月 13 日（金） 14：40～16：10

講師：熊野正也氏（明治大学図書館事務部長）

会場：人類学博物館学習室

3. 資料貸出・撮影・閲覧・他機関刊行物等への掲載

(1) 資料貸出

貸出先	資料名・点数	貸出期間	目的
知多市歴史民俗博物館	入海貝塚出土土器 4点・土偶1点	8月3日～10月20日	平成17年度収蔵品展「楠廻間貝塚 貝塚と人々の暮らし」出展
名古屋市博物館	大須二子山古墳・ 断夫山古墳・白山 藪古墳・蓮池古墳 出土資料計20点	9月26日～11月14日	特別展「古墳はなぜつくられたのか 古代濃尾の王と民衆」出展

(2) 撮影・他機関刊行物への掲載

機関名	資料名	刊行物名	備考
角川学芸出版	大須二子山古墳出土 挂甲	『絹染織文化財の世界 伝統文化財と保存科学の 融合をめざして』	元興寺文化財 研究所小村真理氏
取手市教育委員会	中妻貝塚発掘略報 (複製)	「文化財で振り返る取手 の歩み」展パンフレット	展示でも使用
開隆堂出版	二ツ木貝塚出土 深鉢形土器	『美術 表現と鑑賞』	
沼津市教育委員会	西志賀貝塚出土壺	『沼津市史通史編 原 始・古代・中世』	
元興寺文化財 研究所	大須二子山古墳出土 挂甲	執轡如組 ひ(手綱)をと ることそのごとし」	展示パネル
考古学フォーラム	保美貝塚出土貝輪	『考古学フォーラム第18 号』「東海地域における貝 輪について その制作・使 用・廃棄の流れー」	愛知県埋蔵文化財 センター 川添和暁氏
日本通信教育連盟	花輪台貝塚出土土偶	『日本通史～別巻・歴史絵 巻』	
春日井市教育 委員会	大須二子山古墳出土 画文帯向式神獸鏡	『東海学セミナー(2)』	

4. 資料修復

該当資料なし。

5. 当館紹介刊行物一覧

機関名	内容	刊行物名
株式会社ネオパブリシティ	概要、利用案内等	『るるぶMAP 名古屋』
小学館	展示概要、利用案内等	『小四教育技術』ほか
K&B パブリッシャーズ	概要、利用案内等	『名古屋ベストガイド』
名古屋市教育委員会	概要、利用案内等	『施設ガイド』
昭和区役所	概要、利用案内等	『昭和区グリーンマップ』

6. 刊行物一覧

2005 年度刊行物

『南山大学人類学博物館紀要』第 24 号

『南山大学人類学博物館年報 2004 年度』

7. 受贈資料

資料名 大工道具・生活資料ほか 654 点

寄贈者 水野進氏

資料名 ワープロ 3 台

寄贈者 加藤俊一氏（本学非常勤講師）

資料名 8 ミリ映写機

寄贈者 グラバア俊子氏（本学人文学部心理人間学科教授）

資料名 裁縫関係資料を中心とした生活資料 228 点

寄贈者 堀内俊彦氏

資料名 洗濯機

寄贈者 川崎勝氏（本学経済学部教授）

8. 新着図書

(1) 購入図書

書名	著編者名	出版社名
あこのころ 京都の暮らし 写真が語る 百年の暮らしの変化	中村治	世界思想社
アフリカ	小川了	農村漁村文化協会
アフリカの絹	クリス・スプリングほか	デザインエクステン ジ
描かれた黄泉の世界 王塚古墳	柳沢一男	新泉社
江戸のミクロコスモス 加賀藩江戸屋敷	利光三津夫、植村峻、 田宮健三	新泉社
缶詰ラベル博物館	京都造形芸術大学情報 デザイン研究センターほか	東方出版
北の黒曜石の道 白滝遺跡群	木村英明	新泉社
北辺の海の民 モヨロ貝塚	米村衛	新泉社
旧石器考古学辞典 増補改訂	松藤和人	学生社
近代日本のグラフィズム マッチラベル博物館	福田綾美	東方出版
黒潮を渡った黒曜石 見高段間遺跡	池谷信之	新泉社
原始集落を掘る 尖石遺跡	勅使河原彰	新泉社
考古学研究調査ハンドブック 縄文土器の技法	可児通宏	同成社
五千年におよぶムラ 平出遺跡	小林康男	新泉社
古代祭祀とシルクロードの終着地 沖ノ島	弓場紀知	新泉社
古墳時代の地域社会復元 三ツ寺I遺跡	若狭徹	新泉社
最古の王墓・吉武高木遺跡	常松幹雄	新泉社
少年少女レトロ玩具箱	落合紀文	河出書房新社
写真ものがたり 昭和の暮らし 1 農村	須藤功	農村漁村文化協会
写真ものがたり 昭和の暮らし 2 山村	須藤功	農村漁村文化協会
写真ものがたり 昭和の暮らし 3 漁村と島	須藤功	農村漁村文化協会

書名	編著者名	出版社名
写真ものがたり 昭和の暮らし 4 都市と町	須藤功	農村漁村文化協会
写真ものがたり 昭和の暮らし 5 川と湖沼	須藤功	農村漁村文化協会
縄文時代研究事典	戸沢充則	東京堂出版
縄文のイエとムラの風景 御所野遺跡	高田和徳	新泉社
鉄剣銘―五文字の謎に迫る・ 埼玉古墳群	高橋一夫	新泉社
石にこめた縄文人の祈り・大湯環状列石	秋元信夫	新泉社
土器製塩の島・喜兵衛島製塩遺跡と古墳	近藤義郎	新泉社
縄文の社会構造をのぞく・姥山貝塚	堀越正行	新泉社
大仏造立の都・紫香楽宮	小笠原好彦	新泉社
律令国家の対蝦夷政策・ 相馬の製鉄遺跡群	飯村均	新泉社
筑紫政権からヤマト政権へ・ 豊前石塚山古墳	長嶺正秀	新泉社
世界たべもの起源事典	岡田哲	東京堂出版
世界の食文化 韓国	朝倉敏夫	農山漁村文化協会
世界の食文化 モンゴル	小長谷有紀	農山漁村文化協会
世界の食文化 極北	岸上伸啓ほか	農山漁村文化協会
世界をリードした磁器窯 肥前窯	大橋康二	新泉社
全国博物館園職員録	財団法人 日本博物館協会	日本博物館協会
天下布武の城 安土城	木戸雅寿	新泉社
日本古墳大辞典	大塚初重、小林三郎、熊野正 ほか	東京堂出版
続日本古墳大辞典	大塚初重、小林三郎	東京堂出版
日本民具の造形 ものに心を通わせた歩み	川村善之	淡交社
日本目録規則 1987年版 改訂2版	日本図書館協会目録委員会	日本図書館協会
博物館の学びをつくりだす その実践へのアドバイス	小笠原喜康、チルドレンズ・ ミュージアム研究会	ぎょうせい
ベトナム・カンボジア・ラオス・ ミャンマー	森枝卓士	農村漁村文化協会
ボタン博物館	福田綾美	東方出版

書名	編著者名	出版社名
弥生実年代と都市論のゆくえ・ 池上曾根遺跡	秋山浩三	神泉社
近代の女性美 ハイカラモダン・化粧・髪型	村田考子	ポラ文化研究所
月刊 Musee VOL.72～77	山下治子ほか	アム・プロモーション
文化庁月報 17年7月号～18年3月号	文化庁	ぎょうせい

(2) 寄贈図書

発掘調査報告書	一般図書・紀要・年報・図録・研究報告等	たより類
1,354	1,655	420

うち、1,489冊を早川正一本学人文学部教授より受贈（当館所蔵図書との重複を除く）。

9. 取材・調査のための来館者一覧

来館者名	資料名・点数	実施日
名古屋市博物館 瀬川貴文氏・川合剛氏・杉浦秀昭氏	断夫山古墳・蓮池古墳・大須二子山古墳・白山藪古墳出土資料	4月6日
知多市歴史民俗博物館 門井達氏	入海貝塚出土資料 6点	7月27日
千葉大学大学院博士課程 井上賢氏・松井朗氏	縄文早期土器	9月5日
千葉県教育庁文化財課 永塚俊司氏	恵日山遺跡石器・マリンガーコレクション	9月5日
奈良教育大学学生 初村武寛氏	大須二子山古墳出土挂甲	9月5日
奈良教育大学学生 笹田幸佑氏	縄文土器早期～中期 8点	9月5日
明治大学大学院生 植木雅博氏	蝦島貝塚出土土器 2点	9月20日
根室市歴史と自然の資料館 猪熊樹人氏	丸本家イカ釣具 1点	10月21日
川崎市市民ミュージアム 小坂延仁氏	瑞穂遺跡・高蔵貝塚出土資料	11月7日
福岡大学大学院生 川口陽子氏	貝輪 2点	11月10・11日

来館者名	資料名・点数	実施日
東海縄文研究会	保美貝塚・伊川津貝塚・吉胡貝塚出土資料	12月17日 1月15日
名古屋市資料調査研究会 考古部会	山の田古墳出土資料 5 点	
朝日新聞社 宮代栄一氏	大須二子山古墳出土馬具、白山藪古墳出土馬具	3月1日

10. 開館日数・入館者数

(1) 開館日数・入館者数

開館日数	総入館者数(大学の授業での来館を除く)
278 日	6,372 人

学校団体数	学校団体人数	一般団体数	一般団体人数
46	2,353 人	25	1,035 人

(2) 団体別入館者数内訳(学内授業以外)

大学見学

日付	団体名	人数	担当課室
4月21日	私立麗澤瑞浪高校	70	入試課
4月28日	岐阜県立可児高校	200	入試課
5月18日	私立美濃加茂高校	50	入試課
5月27日	私立富田高校	47	入試課
6月1日	愛知県立新城東高校	5	入試課
6月1日	私立東邦高校	75	入試課
6月7日	岐阜県立大垣商業高校 PTA	110	入試課
6月8日	富山県立八尾高校	40	入試課
6月14日	私立大垣日大高校	2	入試課
6月20日	岐阜県立武儀高校 PTA	35	入試課
6月29日	愛知県立桜台高校 PTA	50	入試課
7月4日	三重県立宇治山田高校	320	入試課
7月7日	私立豊川高校	24	入試課
7月15日	愛知県立小牧南高校	178	教育・研究支援事務室
7月25日	私立東海高校 PTA	35	入試課
8月1日	岐阜県立各務原西高校	40	入試課
8月1日	私立桜花学園高校	25	入試課

日付	団体名	人数	担当課室
8月3日	岐阜県立中津高校	54	入試課
8月4日	岐阜県立大垣東高校 PTA	35	入試課
8月5日	長野県立赤穂高校	33	入試課
8月5日	石川県立小松明峰高校 PTA	25	入試課
9月9日	三重県立津西高校	40	入試課
9月27日	愛知県立吉良高校 PTA	22	入試課
9月29日	私立中京高校	35	入試課
10月13日	滋賀県立虎姫高校	18	入試課
10月18日	岐阜県立各務原西高校	79	入試課
10月20日	愛知県立一宮南高校	70	入試課
10月24日	愛知県立杏和高校	12	入試課
3月30日	豊田工業大学	12	学長室

大学見学以外

日付	団体名	人数
4月20日	明治大学カルチェ・ヴィヴァン文化講座	40
4月23日	環太平洋神話学会	15
6月4日	東海石器研究会	13
6月21・22日	名古屋市立川名中学校3年生	30
6月24日	飛島村立飛島中学校2年生	48
7月12日	クラブツーリズムカルチャー旅行センター歴史倶楽部	16
7月21日	音聞山子ども会	14
8月3日	國學院大学博物館実習	36
10月13日	名古屋市立高年大学歴史愛好クラブ	37
10月20日	江南市立宮田中学校1年生	7
10月20日	小牧市立北里中学校	5
10月24日	中日文化センター	19
10月29日	NPO 法人名古屋おやこセンター「キッズ・カレッジ」	20
11月11日	阿久比町立阿久比中学校2年生	4
11月22日	名古屋・瀬戸地区高等学校社会科教育研究会世界史部会	24
12月1日	豊明市立豊明中学校1年生	5
12月6日	名古屋市立高年大学広報研究クラブ	32
1月15日	東海縄文研究会	約80
1月20日	名古屋市立桜山中学校2年生	17

日付	団体名	人数
1月26日	名古屋市立一柳中学校1年生	11
2月14・15日	名古屋市立滝川小学校3年生	145
2月15日	名古屋市立清水小学校5年生	47

大学行事

日付	行事名	人数
7月17日	オープンキャンパス	558
10月1日	父母のつどい	55
10月10日	体験入学会	143

11. 日誌抄

4月

- 1日 実務者打ち合わせ
「南山大学人類学博物館規程」「南山大学人類学博物館運営委員会規程」施行
- 4日 保存処理に係る物品等調達協議申請書提出、資料室に書架4本設置工事
名古屋市資料調査研究会に資料調査承諾書送付
- 5日 新入生向け博物館ガイドツアー実施（参加者8名）
資料整理委託に係る物品等調達協議申請書提出
- 6日 館長印制定に係る起案提出、館内改修工事に係る物品等調達協議申請書提出
名古屋市博物館瀬川氏資料調査のため来館（大須二子山古墳出土挂甲）
- 7日 小学館『小四教育技術』・ネオパブリシティに掲載承諾書送付
資料整理委託業者との打ち合わせ
- 11日 資料整理委託契約に関する打ち合わせ
- 12日 資料寄贈者への感謝状発行のための起案提出、小学館『小四教育技術』校正
- 13日 博物館講座チラシ・ポスター発送、資料整理委託契約に係る起案提出
- 15日 新パンフレット・ポスターデザイン決定、校正
- 18日 資料整理業務委託スタート、新パンフレット・ポスター校正
- 19日 当館所蔵発掘調査報告書選及入力委託に係る打ち合わせ
- 20日 資料保存処理委託契約に係る起案提出、『全国博物館総覧』原稿作成
明治大学カルチェ・ヴィヴァン文化講座40名見学
- 21日 資料室書架設置作業（施設課、～22日）、私立麗澤瑞浪高校70名見学（入試課）
- 23日 環太平洋神話学会15名見学、目崎茂和本学総合政策学部教授より図書2冊受贈
- 25日 学習室を中心とした模様替え
- 27日 発掘調査報告書選及入力に係る打ち合わせ

28日 資料保存処理業者来館・打ち合わせ、資料寄贈者への感謝状送付
岐阜県立可児高校 200 名見学（入試課）

5月

- 6日 発掘調査報告書遡及入力委託契約に係る起案提出
- 9日 本学図書館と発掘調査報告書遡及入力に係る打ち合わせ、実務者打ち合わせ
- 11日 名古屋市博物館へ資料調査承諾書・小学館『小四教育技術』へ掲載承諾書・角川学芸出版へ転載承諾書を送付、資料室書架設置作業（施設課、～13日）
博物館講座講師依頼を送付、全国博物館総覧原稿送付
- 14日 第1回博物館講座「マリンガー・コレクション」講師：早川正一氏
- 16日 資料を寄贈したい旨の電話あり
- 18日 博物館講座講師謝礼に係る起案提出、発掘調査報告書を資料室に搬入・配架
土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場へ出陳していた資料返却（花輪台貝塚出土土偶） 私立美濃加茂高校 50 名見学（入試課）
- 19日 事務用 PC2 台と発掘調査報告書遡及入力用 PC 搬入・設定（事務システム課）
- 23日 発掘調査報告書遡及入力用 PC にネオシリウスをインストール
発掘調査報告書遡及入力に係る打ち合わせ（～25日）
新パンフレット校正、『るるぶマップ名古屋』原稿校正
- 25日 丸木舟保存処理作業
- 26日 「ミュージアムマネジメント」セミナー参加のための出張申請書提出
東海石器研究会資料利用承諾書送付
- 27日 図書館研修参加、私立富田高校 47 名見学（入試課）
- 28日 本学総合受付より扇風機受贈
- 30日 発掘調査報告書遡及入力委託作業開始
- 31日 図書館研修参加、博物館ポスター納品

6月

- 1日 愛知県立新城東高校 5 名・私立東邦高校 75 名見学（入試課）
- 3日 「ミュージアムマネジメント」セミナー参加（後藤）
- 4日 東海石器研究会で当館使用
- 7日 新パンフレット納品
- 8日 「ミュージアムマネジメント」セミナー参加（安藤）
富山県立八尾高校 2 年生 40 名見学（入試課）
- 9日 出張報告書提出（後藤）
- 11日 第2回博物館講座「入海貝塚と縄文早期」講師：大塚達朗氏
消火器点検（総務課）
- 13日 出張報告書提出（安藤）
- 14日 私立大垣日大高校 2 名見学（入試課）

- 15日 第1回博物館運営委員会
- 16日 『雑誌新聞かたろぐ』送付
- 20日 第1回経理実地調査(経理課) 岐阜県立武儀高校 PTA35名見学(入試課)
寄贈希望資料下見調査(黒沢浩本学人文学部助教授、安藤)
- 21日 名古屋市立川名中学校3年生15名見学・解説
- 22日 新着資料搬入(黒沢浩本学人文学部助教授、須山)
名古屋市立川名中学校3年生15名見学・解説、シンポジウム打ち合わせ
- 24日 飛島村立飛島中学校48名見学・解説
- 28日 名古屋市博物館へ資料出陳承諾書、東京国際大学へ館務実習受入承諾書送付
名古屋市見晴台考古資料館村木氏『名古屋市史』に係る調査のため来館
- 30日 個別事業計画書(遡及入力・資料整理・博物館改修)提出
日本私立学校振興・共済事業団平成16年度補助金見直し調書提出(総務課)
博物館ポスター・新パンフレット発送

7月

- 2日 第3回博物館講座「日本考古学研究所とジェラード・グロートのコレクション」
講師：領塚正浩氏
- 4日 燻蒸処理業者来館・打合せ、三重県立宇治山田高校320名見学(入試課)
- 6日 夏休み後までの業務内容打合せ
- 7日 私立豊川高校24名見学(入試課)
- 8日 防カビマスク購入のための起案提出
- 9日 丸木舟保存処理作業実施
- 11日 学習院大学文学部高埜利彦教授来館
- 12日 クラブツーリズムカルチャー旅行センター歴史倶楽部16名見学・解説
蜂の巣駆除(施設課)
- 14日 日本博物館協会アンケート回答、友枝啓泰国立民族学博物館名誉教授来館
- 15日 愛知県立小牧南高校178名総合学習対応(教育・研究支援事務室)
- 17日 オープンキャンパスのため開館 558名見学
- 20日 館務実習希望者面接のため来館、年報印刷業者と打合せ
國學院大学見学解説承諾書送付
- 21日 音聞山子ども会見学14名対応、学生ボランティア参加
- 22日 丸木舟保存処理作業実施
- 25日 2004年度年報原稿入稿、私立東海高校PTA35名見学(入試課)
- 26日 年報校正
- 27日 年報最終校正
知多市歴史民俗博物館門井氏資料調査のため来館(入海貝塚資料)
- 28日 ロビーの展示撤収作業、館内燻蒸作業に係る物品等調達協議申請書提出

29日 ガス点検（施設課） 父母のつどい用原稿校正（総務課）

8月

1日 岐阜県立各務原西高校 40名、私立桜花学園高校 25名見学（入試課）

2日 学生アルバイト雇用申請書提出

3日 知多市歴史民俗博物館へ入海貝塚資料出陳

國學院大学博物館実習履修生 33名（引率3名含）見学・解説

岐阜県立中津高校 54名見学（入試課）

4日 資料寄贈宅訪問、資料の引取りと聞き取り調査実施

岐阜県立大垣東高校 PTA35名見学（入試課）

5日 補正予算打合せ、保存処理に出していた資料の納品・検収

マーク・レーナー博士講演会打合せ

長野県立赤穂高校 33名・石川県立小松明峰高校 PTA25名見学（入試課）

6日 事務休日のため閉館（～21日）

8日 博物館シンポジウム打合せ

22日 館務実習（～9月2日）

27日 館内燻蒸処理作業実施

28日 燻蒸処理後の立ち合い・チェック

31日 名古屋学芸大学非常勤講師齋藤基生氏来館

発掘調査報告書遡及入力に係る打合せ

9月

5日 木更津市教育委員会井上氏・千葉県教育庁永塚氏・奈良教育大学学生初村氏・同
笹田氏資料調査のため来館

8日 燻蒸処理業者来館・作業報告書を受け取る

9日 博物館・資料館等施設調査（名古屋市教育委員会）回答

12日 マーク・レーナー博士講演会打合せ

13日 アンデススライド資料整理作業に係る打合せ

20日 マーク・レーナー博士講演会打合せ

明治大学大学院生植木氏資料調査のため来館（蝦島貝塚資料）

21日 沼津市教育委員会に西志賀遺跡関係写真掲載承諾書送付

ロビーの展示設備撤去（施設課）

22日 ロビーのワックスがけのため午後臨時休館

24日 第4回博物館講座「大須二子山古墳の時代」講師：伊藤秋男氏

26日 名古屋市博物館へ資料出陳（大須二子山古墳出土資料ほか） 2004年度年報発送

27日 マーク・レーナー博士講演会（人類学博物館後援）

愛知県立吉良高校 PTA22名見学（入試課）

「博学連携」フォーラム参加のための出張申請書提出

- 29日 私立中京高校 35名見学(入試課)
- 30日 開隆堂へ写真使用・掲載承諾書と資料写真画像送付
日本私立学校振興・共済事業団平成17年度補助金実績見込額申請書提出(総務課)

10月

- 1日 父母のつどい 来館者 54名
- 4日 文部科学省社会教育調査回答
- 5日 『雑誌新聞総かたろぐ』アンケート回答、情報機器申請書類提出
- 8日 第5回博物館講座「タイ西北部山地民族の調査」講師：量博満氏
- 11日 元興寺文化財研究所へ写真再使用承諾書送付
K&B パブリッシャーズに掲載承諾書送付
- 10日 体験入学会、キャンパスツアーで 142名見学、特別嘱託職員雇用申請書提出
文部科学省「開かれた大学づくりに関するアンケート」回答(総務課)
- 12日 名古屋市教育委員会へ平成16年度の来館者数回答
「博学連携フォーラム」参加(安藤)
- 13日 名古屋市高年大学歴史愛好クラブ 37名見学・解説
滋賀県立虎姫高校 18名見学(入試課)
- 14日 出張報告書提出(安藤)
- 17日 LAN設定更新(事務システム課)
- 18日 岐阜県立各務原西高校 79名見学(入試課)
- 19日 愛知県埋蔵文化財センター川添氏に資料図面掲載承諾書送付
- 20日 江南市立宮田中学校 1年生 7名総合学習対応
知多市歴史民俗博物館へ出陳していた資料返却(入海貝塚資料)
愛知県立一宮南高校 70名見学・概要説明(入試課)
- 21日 根室市歴史と自然の資料館猪熊氏調査のため来館
- 24日 臨時職員後任者決定、雇用申請書提出
- 25日 第2回経理実地調査
- 27日 「研究開発支援総合ディレクトリ調査」回答(総務課)
- 28日 業務引き継ぎ打合せ
- 29日 NPO 法人名古屋おやこセンター20名見学対応
- 31日 特別嘱託職員後藤真里退職

11月

- 1日 特別嘱託職員木田歩・臨時職員山崎剛着任
- 2日 2次補正予算書類提出
- 3日 南山大学同窓会ホームカミングデーのため特別開館
次年度臨時職員雇用時間申請書提出
- 9日 実務者会議

- 10日 福岡大学大学院生川口氏調査のため来館
- 11日 用品除却申請書提出、阿久比中学校2年生4名見学・解説
次年度活動・予算打合せ
独立行政法人大学評価・学位授与機構「教育研究活動に関する刊行物調査」回答
- 12日 第6回博物館講座「ニューギニア高地人の調査」講師：早川正一氏
- 14日 名古屋市博物館に出陳していた資料返却（大須二子山古墳資料ほか）
- 16日 次年度事業打合せ
- 18日 公開講演会の謝礼支払いに係る起案提出
- 21日 シンポジウムポスター・チラシ発送
- 22日 名古屋・瀬戸地区高等学校社会科教育研究会世界史部会現地研修会受け入れ、展示解説と黒沢浩本学人文学部助教授の講演
- 24日 第2回博物館運営委員会開催
- 28日 名古屋大学博物館実習生見学対応、次年度予算目的構成申請書提出
- 30日 シンポジウム打合せ

12月

- 1日 豊川市立豊川中学校1年生5名見学・解説
- 3日 シンポジウム『強い博物館像を求めて 博物館はどうか？！』開催
- 5日 次年度予算打合せ
- 6日 次年度特別嘱託職員雇用申請書提出
名古屋高年大学広報研究クラブ31名見学・解説
- 7日 次年度活動打合せ、博物館入口の街灯設置工事完了
文部科学省「地域における博物館・科学館における取り組みに関する調査」回答
- 9日 次年度予算申請
- 10日 第7回博物館講座「昭和30年代、日本人の生活」講師：大塚達朗氏
- 15日 資料寄贈者宅へ資料の引き取り・聞き取り調査
日本通信教育連盟『日本通史』掲載用に写真データと掲載承諾書送付
- 16日 博物館セミナー、公開講演会『古墳時代の地域社会』講師：若狭徹氏
- 17日 東海縄文研究会準備会
- 19日 連携授業に係る打合せ
- 20日 友枝啓泰国立民族学博物館名誉教授講演会（ラテンアメリカ研究センター・人類学研究所との共催）
- 21日 発掘調査報告書遡及入力に係る打合せ
- 28日 館内工事の業者来館

1月

- 12日 ポンプ室配管修理完了、名古屋市立滝川小学校3年生教諭下見見学対応
- 13日 博物館セミナー、公開講演会『シュリーマンの考古学』講師：熊野正也氏

- 13日 第二展示室展示ケースガラス交換
- 14日 第8回博物館講座「弥生時代のはじまり 高蔵貝塚・西志賀貝塚」講師：黒沢浩
- 15日 東海縄文研究会
- 17日 丹青研究所里見親幸氏・中沢文三氏来館
- 19日 2006年度学生生活案内最終校正（学生課）
- 20日 名古屋市立桜山中学校 17名見学・解説、館内工事業者来館
- 23日 当館所蔵「上智大学西北タイ歴史文化調査団」資料に関する打合せ（田口理恵東海大学海洋学部助教授・清水郁郎大同工業大学工学部助教授来館）
- 25日 名古屋市教育委員会『施設ガイド』校正、トイレ配管修理
- 26日 名古屋市立一柳中学校 1年生 11名見学対応、名古屋市立久方中学校 3名見学
- 28日 第三展示室・廊下・学習室の床修繕工事
- 30日 昭和区役所発行『昭和区グリーンマップ』原稿チェック、掲載承諾書送付
- 31日 「博物館制度の実態に関する調査研究」アンケート回答

2月

- 1日 当館所蔵「上智大学西北タイ歴史文化調査団」資料に関する打合せ（久保正敏国立民族学博物館教授・田口理恵東海大学海洋学部助教授・清水郁郎大同工業大学工学部助教授来館）、豊橋市美術博物館山本氏・富田氏来館
『昭和区グリーンマップ』原稿校正
- 4日 当館所蔵「上智大学西北タイ歴史文化調査団」資料デジタル化のため業者来館
- 8日 総合地球環境学研究所・春日井市教育委員会資料利用承諾書送付
学生アルバイト雇用申請書提出
- 14日 名古屋市立滝川小学校 3年生見学対応
- 15日 名古屋市立滝川小学校 3年生・名古屋市立清水小学校 47名見学対応
- 16日 展示資料写真撮影に係る打合せ
- 17日 資料寄贈者来館、聞き取り調査
- 20日 紀要印刷業者と打合せ
- 21日 本学非常勤講師加藤氏よりワープロ3台受贈、総合学習案内チラシ印刷発注
- 22日 臨時職員雇用申請書提出、西収蔵庫蛍光灯修理（施設課）
- 24日 次年度活動打合せ
- 28日 資料寄贈希望者宅へ資料の実見のため訪問、総合学習案内チラシ発送

3月

- 1日 紀要原稿入稿、朝日新聞社宮代氏資料調査・写真撮影
当館所蔵「上智大学西北タイ歴史文化調査団」資料デジタル化のため業者に搬出
展示資料写真撮影開始（マリンガー・コレクションと縄文土器、～7日）
- 2日 北方民族博物館角氏来館
- 7日 女子トイレ修理

- 8日 グラビア俊子本学人文学部教授より8ミリ映写機受贈
- 9日 寄贈資料受け取り
- 10日 紀要原稿最終校正、連携授業に係る打合せ
次年度発掘調査報告書遡及入力に係る物品等調達協議申請書提出
- 14日 コピー機入れ替え・1台増設
- 15日 次年度資料整理委託に係る物品等調達協議申請書提出
- 16日 次年度発掘調査報告書遡及入力委託契約に係る起案提出
- 23日 第3回経理実地調査
- 24日 紀要納品
- 27日 次年度資料整理委託契約に係る起案提出、紀要発送、西収蔵庫の蛍光灯器具交換
- 28日 川崎勝本学経済学部教授より洗濯機受贈
- 30日 豊田工業大学視察団12名見学対応

12. 施設整備

日付	内容
4月4日～	資料室書架設置
7月12日	蜂の巣駆除
8月27日～28日	館内燻蒸
9月21日	ロビーの展示撤去
9月22日	ロビー・廊下ワックスがけ
11月25日	学習室エアコン修理
12月7日	博物館入口街灯設置工事
1月10日～12日	ポンプ室配管修理
1月13日	第二展示室展示ケースガラス交換
1月25日	トイレ配管修理
1月28日	第三展示室・学習室・廊下床修繕工事
2月22日	西収蔵庫蛍光灯修理
3月7日	女子トイレ配管修理
3月13日	西収蔵庫配管修理
3月27日	西収蔵庫蛍光灯器具交換

13 . 2005 年度予算決算報告

削除

14 . 組織

(1) 職員

館長 浜名優美 (副学長 (教学担当) / 総合政策学部教授)

担当教員 黒沢浩 (人文学部人類文化学科助教授)

特別嘱託職員 安藤さおり

後藤真里 (10 月 31 日退職)

木田歩 (11 月 1 日着任)

臨時職員 須山成彦

木田歩 (10 月 31 日退職)

山崎剛 (11 月 1 日着任)

(2) 博物館運営委員会

委員長 黒沢浩 (人文学部助教授)

委員 服部裕幸 (人文学部教授 / 博物館学芸員養成課程委員会委員長)

加藤隆浩 (外国語学部教授)

大塚達朗 (人文学部教授)

早川正一 (人文学部教授)

新里敏夫 (南山エクステンション・カレッジ事務室長)

土屋玲 (教務課長)

後藤真貴子 (学長室企画係長)

15. 規程

(1) 南山大学人類学博物館規程

(目的)

第1条 南山大学学則第44条の2にもとづき、本学に南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）を置く。

博物館は、「人類学（文化資源学、考古学、民俗学および民族学を含む。）」（以下「人類学」という。）に関する資料の収集、調査、解析、収蔵、管理、保存、展示、公開などを行ない、本学の学生、職員および社会の利用に供し、教育・研究に資することを目的とする。

博物館の組織および運営については、この規程の定めるところによる。

(事業)

第2条 前条第2項の目的を達成するため、博物館は、次の各号に掲げる事業を行う。

- 1 人類学に係る調査、収集、保存、管理および解析
- 2 人類学の展示および公開
- 3 人類学に関する情報提供
- 4 人類学に関する教育研究の支援
- 5 博物館所蔵資料を利用した生涯学習の企画および運営
- 6 博物館および博物館に従事する職員の資質向上に寄与する学芸員の養成

(館長)

第3条 博物館に館長を置く。館長は副学長（教学担当）とする。

館長は、博物館の事業を統轄し、博物館を代表する。

(担当教員)

第4条 博物館に博物館担当教育職員（以下「担当教員」という。）を置く。

担当教員は、博物館活動の企画・運営に従事する。

担当教員は、学長が指名する候補者について、大学評議会の承認を得て委嘱する。

(運営委員会)

第5条 博物館の運営に関する重要事項を協議し、諸事全般を決定する機関として南山大学人類学博物館運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

運営委員会に関する規程は、別に定める。

(規程の改正)

第6条 この規程の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、博物館の運営について必要な事項は、運営委員会の議を経て、館長が別に定める。

附 則

この規程は、2005年4月1日から施行する。

(2) 南山大学人類学博物館運営委員会規程

(目 的)

第1条 南山大学人類学博物館運営委員会（以下「委員会」という。）は、南山大学人類学博物館規程第5条にもとづき、南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）の運営に関する重要事項を協議し、諸事全般を決定することを目的とする。

(組 織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 1 博物館担当教育職員（以下「担当教員」という。）
- 2 博物館学芸員養成課程委員会委員長
- 3 学長より指名された者若干名

委員は、大学評議会の承認を経て、学長が委嘱する。

委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(所掌事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- 1 博物館の予算（案）および決算（案）に関する事項
- 2 博物館資料の収集選択に関する事項
- 3 博物館関係規定の制定または改廃に関する事項
- 4 博物館の事業に関する事項
- 5 その他博物館の管理運営に関する重要事項

(議事運営)

第4条 委員会に委員長を置き、担当教員をもってあてる。

委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

委員長に支障のあるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

委員会は、特に定めのある場合のほか、委員の過半数の出席をもって成立し、出席者の過半数をもって議決する。

委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(事 務)

第5条 委員会の事務は、博物館事務室が担当する。

(規定の改正)

第6条 この規定の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員会が別に定める。

附則

この規程は、2005年4月1日から施行する。

2006年6月15日 印刷

2006年6月26日 発行

南山大学人類学博物館年報 2005年度

編集・発行人 南山大学人類学博物館

466-8673 名古屋市昭和区山里町18

052(832)3111 内線445

印刷 株式会社ウエルオン

460-0007 名古屋市中区新栄3-21-31

052(732)2227